令和５年度第８号（令和６年３月発行）

銘 柄 米 生 産 情 報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町
ＪＡ会津よつば（あいづ地区）・JA全農福島県本部
福島県農業共済組合会津支所・福島県会津農林事務所農業振興普及部

今できる高温対策

～夏の高温が予想されます～
高温障害を軽減させるため、土作りを行いましょう！

堆肥（1～2t/10a)や土壌改良資材（ケイカリン等）を施用して、根張りのしっかりした稲を作りましょう！

～育苗のポイント～

令和５年産の種子は、高温で登熟したため休眠が深くなっています。浸種を低温（10℃以下）で行うと発芽不良になることがありますので、十分気をつけましょう。

１　塩水選と種子消毒をきちんと行い、病害の発生を抑えましょう。
２　浸種を十分に行い、出芽のばらつきを少なくしましょう。
３　苗の種類にあった適正播種量を守りましょう。
４　育苗中は被覆資材を上手に使い、適切な温度管理を行いましょう。
５　病害の特徴や発生要因を確認し、予防防除に努めましょう。

１　塩水選と種子消毒をきちんと行い、病害の発生を抑えましょう。

（１）未消毒の種子は、必ず種子消毒を行いましょう。
　　ばか苗病などの種子伝染性病害の対策につながります。

（２）購入種子の場合でも、必ず塩水選を行い、充実した健全な種子を選びましょう。
　　比重　うるち：1.13（水10Ｌ当たり食塩2.1kg、硫安の場合は2.7kg）
　　もち：1.10

２　浸種を十分に行い、出芽のばらつきを少なくしましょう。

水温10～12℃で、12～14日程度を目安とします。
もみ袋には種もみを詰めすぎないようにしましょう。
水槽にも、もみ袋を詰めすぎないようにしてください。
浸種３日目までは水の交換は行わず、４日目以降は酸素供給のために毎日水を交換しましょう。

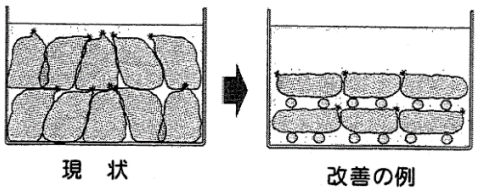

図１：浸種時の水槽のイメージ

３　苗の種類にあった適正播種量を守りましょう。

表１：苗の種類と播種量

苗の種類	播種量(g/箱)	育苗日数(日)	草丈(cm)	葉齢(葉)
稚　苗	200	20～25	10～13	2.2～2.5
中　苗	100	30～35	13～15	3.0～3.9

４　育苗中は被覆資材を上手に使い、温度管理を行いましょう。

温度計を設置し、ハウス内の温度を確認しましょう。特に、高温による苗やけに注意をしてください。

表２：育苗中の温度管理の目安

育苗時期	昼間の温度	夜間の温度
緑化期	25℃	12～15℃
硬化期	15～20℃	10～15℃

表３：主な被覆資材の特徴例

被覆資材	資材の特徴
シルバー系フィルム （例：ミラーシート）	（利点）昼間の温度が上がりにくく、夜間の保温性がよい。 （欠点）遮光率の低いフィルムは、晴天時に苗やけが出やすい。
アルミ蒸着シート （例：本州太陽シート）	（利点）遮光率が高く、温度が上がりにくい。 （欠点）地温を上げる効果が低く、低温時には注意が必要。 アルミが剥げてしまうと苗やけが発生しやすい。

５　病害の特徴や発生要因を確認し、予防防除に努めましょう。

表４：育苗期の主な病害

病害名	病害の特徴	主な発生要因
ばか苗病	育苗の中～後期に、葉鞘および葉身が徒長し、葉色が黄化する。	・罹病種子の使用 ・種子消毒の未実施
もみ枯細菌病	幼芽の褐変、わん曲、腐敗枯死。 育苗中期以降：苗の基部が退色、腐敗して新葉が抜ける。 すり鉢状の坪枯れ症状となる。	・罹病種子の使用 ・種子消毒の未実施 ・催芽～育苗期間の30℃以上の高温多湿 ・床土のpHが高い（5.6以上） ・床土の透水性が悪い
苗立枯細菌病	もみ枯細菌病と症状が似ているが、葉が赤茶けて針状に枯死する。	
苗立枯病 （ﾌｻﾞﾘｳﾑ属菌）	地際部及び根が褐変する。苗の基部やもみの周りに白色ないしは紅色のカビが生える。	・緑化及び硬化期間中の極端な温度変化や10℃以下の低温 ・床土のpHが低い
苗立枯病 （ﾋﾟｼｳﾑ属菌）	腐敗枯死症状、またはムレ苗症状。 ムレ苗症状は育苗後期に発生する。 （カビは見えない）	・緑化期以降の低温 ・野菜畑土の使用や、河川水での浸種、かん水で感染することがある
苗立枯病 （ﾄﾘｺﾃﾞﾙﾏ属菌）	床土表面やもみ周辺に白いカビが生え、その後帯緑色から青緑色となる。 苗の地際部や不完全葉、根が褐変腐敗する。	・育苗期間の高温 ・床土のpHが低い ・播種時のかん水不足などによる床土の乾燥

表５：薬剤の例

薬剤名	対象病害	使用時期	使用方法	使用量
ナエファイン フロアブル	苗立枯病（ピシウム菌 リゾープス菌・フザリウム菌）	ﾋﾟｼｳﾑ菌：は種時～緑化期 その他：は種時	土壌灌注	ﾋﾟｼｳﾑ菌：1000倍～2000倍希釈液を0.5L/箱、 その他：1000倍希釈液を0.5L/箱
タチガレエース M 液剤	苗立枯病（フザリウム菌、ピシウム 菌）	は種時又は 発芽後	土壌灌注	500～1000倍希釈液を、 1箱当たり500ml
ダコレート 水和剤	苗立枯病 （トリコデルマ菌）	は種時～緑化期	灌注	400～600倍希釈液を、 1箱当たり0.5L
ルーチンアドス ピノ 箱粒剤	苗腐敗症 （もみ枯細菌病菌）	は種時 （覆土前）	育苗箱の上から散布	1箱当たり50g